

団体名： NPO 法人 若葉まるまる部

事業・活動名： CoderDojo 若葉みつわ台

使途&助成金額： 広告宣伝費（チラシ印刷） 150,000 円

CoderDojo とは？

子どもを対象とした参加費無料の非営利のプログラミング道場で、2011 年にアイルランドで始まり、世界では 112 カ国・2,200 の道場、日本には 237 以上の道場があります。

若葉みつわ台は 7 年前から、家庭の貧富に関わらず平等に子どもが ICT 機器に触れ、プログラミングを知るきっかけになる居場所を作ることを目的として、毎月第 2 日曜日に開催。地域の小中学生や近隣の市からパソコン好きの子が集まっています。

助成金は CoderDojo の開催案内を掲載したチラシ作成に使用、千葉県教育委員会の後援をとり、小中学校 6 校へ配布しました。

学び合い、教え合う

道場は、メンターと呼ばれる大人のボランティアが見守りながら運営。教えるのではなく、何をどうしたらいいのかを考えて、一緒にやってみることを大切にしています。長く参加している子が「ニンジャ」となり、教え合い交流しながら、なるべく子どもたちで解決できるようにすすめています。

進学した年上の子を見て、下の子が「同じ高校にすすみたい」と自然に目標を持つのも学び合いがあるからこそです。

必要とされる学校以外の居場所

道場参加者の中に、実は不登校の子が多かったことから、2019 年に道場と同じ場所（夜は学習塾）にフリースクールを立ち上げました。不登校の人数は少子化にも関わらず増加しており、コロナの影響も受けて 20 年度は全国で 19 万 6000 人と過去最多。全日制的のフリースクールは珍しいことから千葉市内のみならず市外からも問い合わせが多く、現在は 22 名の子どもが通っています。

その他にも、千葉市の事業でボランティアが行う居場所「どこでもこどもカフェ」やボードゲーム大会も定期開催され、子どもが安心して立ち寄れる場所となっています。



生まれ育った地域を元気に

複数の活動・事業を行うことで、応援する仲間が増え、「ひと・もの・かね」を共有でき、持続可能な活動・事業ができる、と代表の留守さん。お話を聞く中で CoderDojo もフリースクールもすべて繋がっていることが分かりました。子どもの「その時」を待つ温かな視点と、生まれ育ったみつわ台を元気にしたいという熱い想いで、これからも新しいワクワクが生まれそうだと感じました。

（福祉委員長 田端知江）